

えならぬ春の光の中、令和3年度南砺市立井波中学校入学式を挙行いたしましたところ、ご多用の中、南砺市副市長 斎藤宗人（さいとう むねと）様をはじめ、ご来賓の方々にご臨席を賜りましたこと、高い所からではございますが、心より厚く御礼申し上げます。また、保護者の皆様方、お子さまのご入学おめでとうございます。教育を取り巻く状況は、必ずしも夢や希望に満ちあふれたものばかりとは言えず、少なからず不安もあることかと存じます。しかし、私たち教職員一同、お子様の無限の可能性を引き出し、伸ばすための努力を重ねてまいります。

さて、新入生49名のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんは、今日から井波中学校の生徒です。先輩にあたる二、三年生の在校生そして教職員の方々と、心温かい交流を通しながら、中学生として立派に成長してほしいと思います。

ここで、これからの三年間、私が皆さんによく話す言葉を紹介します。それは、「中学校は社会に出る準備をし、大人になるための学校」という言葉です。大人とは、自分のことは自分でできる人であり、また、自分のために、人のために何をすべきかが分かっている人のことを言います。こうした大人になるため、三年間で挑戦して欲しいことを、二つにまとめてみました。

まず一つ目は、中学校三年間を「自分発見の三年間にしてほしい」ということです。自分はどのような人間であり、どんな能力があるか、将来どのような方向へ進むと良いか、ふるさとにどう貢献するか、など、自分という人間をしっかりと見つけて欲しいのです。この中心は、なんといっても「学習」だと思えます。あせらず、自分の力に応じた学習の仕方を工夫し、時には仲間のペースに合わせながら学び合うことが大事です。

二つ目は「周りから信頼される人になって欲しい」のです。学校というところは、様々な人々との関わりで、自分が成長していくところです。私は、社会人として人柄の判断材料となるのは「約束を破らない人」だと思えます。相手や集団のことを考え、目配り・気配り・心配りのできるところに、多くの人は感謝の念を寄せてくれるものです。相談したいと思われるような、差別や偏見がない、心の広い人になってください。

以上、2つの挑戦目標を言いましたが、新型コロナウイルスの出現で、生活上不都合なことが突然起こる日常となりました。しかし大切なことは、前向きに考えながら乗り越えていく力、つまり復元力をつけることだと思えます。井波中学校には、生活のよりどころとなる校訓として、3つの言葉、「自主完遂」「明朗闊達」「質実剛健」があります。この校訓のもと、昨年の令和2年度を井波中学校はたくましく乗り越えました。皆さんも先輩方に負けじと、今この時から「自分探しの旅」に、力強く出発しましょう。意志があるとこ

ろに道は開ける、まさに「志あるところに道あり」なのです。

結びに、井波中学校は県内でも指折りの道徳性が高い学校を目指しており、徳を育むことは学力の向上につながるものと信ずるところです。本日ご臨席賜りましたご来賓の皆様、保護者の皆様に、今後とも本校の教育活動に対して、深いご理解と温かいご支援をいただきますようお願い申し上げますとともに、新入生の皆さんが、心身共に大きく成長することを期待して、式辞といたします。

令和3年4月8日

南砺市立井波中学校校長 河原 秀樹